

美容医療における漢方製剤の活用法

座長

山本 有紀 先生

和歌山県立医科大学病院 教授・皮膚科 准教授

演者

木村 有太子 先生

順天堂大学医学部皮膚科学講座 講師

美肌になるためのケア

美肌になるためのケアには「直接的なケア」と「インナーケア」がある。直接的なケアにはスキンケアや医療機関で施行される美容施術などがある。インナーケアには栄養バランスやサプリメント、運動、十分な睡眠、腸内環境の改善などがあり、近年人気になっている。

演者は、尋常性座瘡や蕁麻疹、湿疹など皮膚科領域において幅広く用いられている十味敗毒湯も美肌へのアプローチに活用できる可能性があると考えている。

桜皮が配合された十味敗毒湯

十味敗毒湯は、10種類の生薬で構成された漢方処方である。十味敗毒湯のエキス製剤には「桜皮」が配合されている製品と「樸椒」が配合されている製品がある。

桜皮は、基原がヤマザクラの樹皮であり、効能は排膿促進、解熱・解毒である。さらに皮膚線維芽細胞のエストロゲン産生増加作用^{1, 2)}、皮脂合成抑制作用³⁾、抗菌作用⁴⁾を有することが報告されており、これらの作用は美容医療においても非常に重要である。一方で樸椒は、基原がクヌギの樹皮であり、効能は止瀉、駆瘀血である。

桜皮による美肌効果

桜皮及び桜皮成分のエストロゲン受容体β結合能

桜皮の成分分析の結果から、桜皮の含有成分としてサクラネチン、ナリンゲニン、ゲニステイン、ゲンクワニンなど8種類の成分が検出されている¹⁾。さらに、これらの成分とエストロゲン受容体β (ER-β)への結合能について評価したところ、桜皮エキスはER-βの結合能を示し、中でもゲニステインの結合能が最も高いことが確認された。一方で樸椒エキスはER-βへの結合能を示さなかった¹⁾。

一般にエストロゲン受容体(ER)は男性より女性に多く存在し、また皮膚ではαとβの2つの受容体のうちER-βが多く発現することが知られている。エストロゲンが線維芽細胞のER-βに結合することにより細胞増殖因子であるTGF-β1、上皮細胞増殖因子(EGF)を誘導し、線維芽細胞が増殖促進されるためエストロゲンが相対的に増加すると推定される。

桜皮の皮脂合成に対する作用

さらに桜皮のエストロゲン分泌に及ぼす効果を検討した報告では、線維芽細胞に桜皮エキスを添加した際の17β-エストラジオール産生量は有意に増加しており、桜皮の皮膚線維芽細胞からのエストラジオールの分泌促進効果が認められた²⁾。

次に、桜皮の皮脂合成に対する作用を検討した報告によ

皮膚科漢方エキスパートセミナー

健やかな肌に導く皮膚科医の新戦略 ～クラシエ漢方が選ばれる理由～

ると、テストステロンを添加した皮脂腺細胞では脂質合成量は有意に増加するが、さらに桜皮エキスを添加するとテストステロン添加で増加した脂質合成量が抑制された³⁾。

男性ホルモンからジヒドロテストステロン(DHT)を介して皮脂腺を活性化し皮脂を分泌する経路において、エストロゲンは5 α -リダクターゼ活性を抑制してDHTの代謝を抑制すると考えられており、この点からも桜皮のエストロゲン様作用による美肌効果が期待できる。

桜皮エキスの老化皮膚に対する作用

桜皮エキス(桜皮エキスを含有する化粧水・乳液)の連用塗布の老化皮膚への効果を検討した報告によると、皮膚の深いシワが2ヵ月の連用で浅くなり、不鮮明だった皮溝、皮丘が1ヵ月の連用で鮮明に見られ、キメが細くなったとの興味深いデータが報告されている⁵⁾。この結果から、桜皮の美肌への効果が期待された。

高脂肪食摂取マウスの皮膚機能に対する十味敗毒湯の薬効評価

食生活は皮膚バリアの機能性に影響することが知られており、摂取する脂肪酸のn-6/n-3比が高いと経皮水分蒸散量(TEWL)が上昇することや⁶⁾、高脂肪食負荷に伴いTEWLが上昇し、皮膚バリア機能が低下することが動物実験で確認されている⁷⁾。

十味敗毒湯に紫外線曝露に伴う皮膚バリア機能の低下を回復した報告⁸⁾があることから、高脂肪食負荷で皮膚バリア機能が低下したマウスに対する十味敗毒湯の効果について検討したところ、普通食群(Normal)に比して高脂肪食を負荷した群(HFD)ではday19においてテープストリッピング処理後のTEWLが有意に増大したが、十味敗毒湯投与群(JHT)ではTEWLの増大が抑制され(図1)、さらにday21においても同様の結果が得られている⁹⁾。

また、脂肪食負荷マウスでは表皮層の角化細胞の分化マーカーとして知られているケラチン類(ケラチン(Krt)5、Krt10、Krt14)の遺伝子発現量が低下していることが報告されているが⁸⁾、十味敗毒湯投与群では減少傾向にあったKrt10の遺伝子発現量が有意に増加した(図2)⁹⁾。

以上の結果から、十味敗毒湯は脂質のバランスに左右されず、皮膚のバリアを強固に維持する作用や、皮膚バリア機能の損傷を回復する作用を有すると考えられる。皮膚バリア機能に対する十味敗毒湯の作用機序として、角化の乱

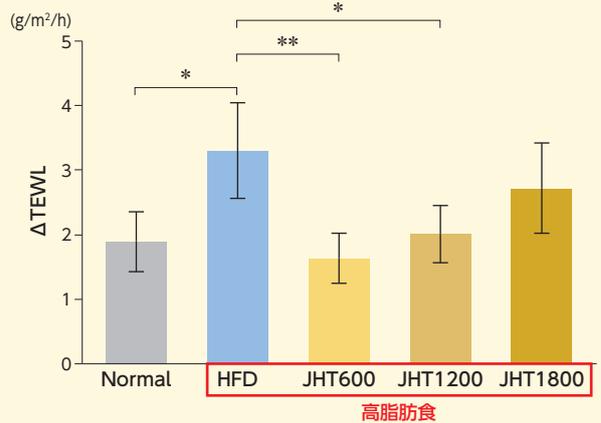
れを正常化することが考えられた。

季節や乾燥、食事やストレス、ホルモン、睡眠などで皮膚バリア機能に不調や乱れが生じ、“ゆらぎ肌”をきたすが、十味敗毒湯の“ゆらぎ肌”をサポートする作用が期待される。

十味敗毒湯の尋常性痤瘡に対する臨床効果

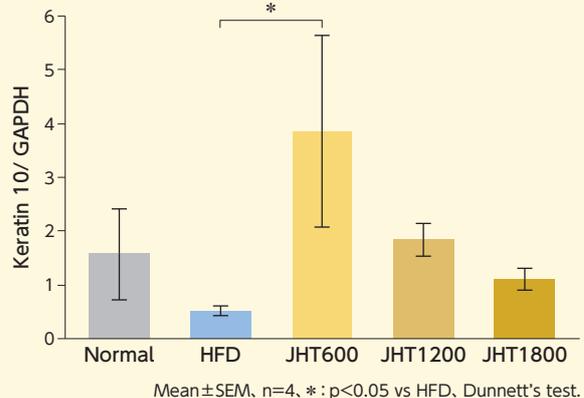
尋常性痤瘡の患者を対象に十味敗毒湯の臨床効果についてアンケート調査をした報告によると¹⁰⁾、十味敗毒湯の服用で痤瘡が改善したことはもちろんだが、興味深いことに「顔の脂っぽさ」や「化粧のノリ」が改善したとの回答が50%以上であった。また、十味敗毒湯の服用から自覚症状改善までの期間については、半数以上の患者が2~4週間で効果を実感していた。

図1 十味敗毒湯の経皮水分蒸散量に及ぼす効果 (day19)



菅原 美紗 ほか: phil漢方 101: 32-34, 2024

図2 十味敗毒湯のkeratin 10に及ぼす効果



菅原 美紗 ほか: phil漢方 101: 32-34, 2024

さらに、十味敗毒湯服用前後の皮疹数の経過を見ると、開放面皰、閉鎖面皰、紅色丘疹、膿疱のいずれも十味敗毒湯の服用3~4週間後に有意に減少した。

痤瘡治療において十味敗毒湯をどのように活用するか

抗菌薬の長期処方をしていないために、抗菌薬内服からの切り替えに十味敗毒湯を上手に使用することが良いと考えている。症例1は、抗菌薬の内服で改善がみられたところで十味敗毒湯に切り替え、以降は良好にコントロールできた症例である(図3)。

また、十味敗毒湯はアダパレンや過酸化ベンゾイル(BPO)などの面皰改善薬による刺激作用の軽減にも使用できる。実際に演者は、面皰改善薬に十味敗毒湯を併用することで紅斑、乾燥、痒痒感が軽減された症例を経験している。

ケミカルピーリングやレーザー治療(保険外診療)との併用治療

痤瘡の治療において、保険治療では治っても再燃を繰り返す、保険治療では改善しない、面皰改善薬がどうしても使用できない、などのような症例では自費診療も検討する必要がある。

症例2は、面皰改善薬による刺激が強いためどうしても使用できない患者だが、ピーリング製剤を使用しながら、十味敗毒湯の併用によって維持期に移行できた(図4)。

このように、痤瘡治療において、十味敗毒湯は急性期から維持期まで非常に活用できる薬剤であると考えている(図5)。

また、美容医療の施術後のダウンタイム中は、肌は乾燥し敏感になりやすく、紫外線や摩擦などの外部からの刺激に対して脆弱になる時期だが、十味敗毒湯を使用することでダウンタイムの時期もうまく過ごせる印象がある。症例3は、フラクショナルレーザー治療後に十味敗毒湯を併用することで良好な状態を維持できている(図6)。

十味敗毒湯を服用している患者は、「内服していると

図3 症例1

就職してからニキビが悪化してきた。BPO製剤やナジフロキサシンクリームを処方されていた。

ドキシサイクリン塩酸塩 100mg/日 (2週のみ)

十味敗毒湯

BPO製剤

アダパレン/BPO配合製剤(継続中)

クリンダマイシンゲル



治療前

3ヵ月後

6ヵ月後

木村 有太子 先生 ご提供

図4 症例2

サリチル酸マクロゴール・ピーリング7回治療



十味敗毒湯併用

木村 有太子 先生 ご提供

皮膚科漢方エキスパートセミナー

健やかな肌に導く皮膚科医の新戦略 ～クラシエ漢方を選ばれる理由～

図5 痤瘡治療のトータルコーディネート

	急性期	維持期
保険治療	<ul style="list-style-type: none"> • 皮疹の改善 • 新生の面皰を作らない 	<ul style="list-style-type: none"> • 面皰を作らない
十味敗毒湯		
スキンケア	洗顔、基礎化粧品： <ul style="list-style-type: none"> • ニキビができにくくなる肌状態になるよう整える • 「悪化させない」「予防」が目的 	
メイク	<ul style="list-style-type: none"> • 皮疹の存在そのものがストレス、QOLの低下 • 治療中でも正しいメイクはニキビを悪化させないことを指導する 	<ul style="list-style-type: none"> • 毛穴を閉塞しないようなファンデーションの使用 → 面皰を作らない
自費治療	ケミカルピーリング、IPL治療、レーザー治療、イントレチニン内服、低用量ピル	
ストレスをためない	規則正しい生活、食生活の見直し、睡眠、環境の改善、運動、便秘の改善など	

肌の調子がいいです」「内服していると化粧ノリがいいです」とおっしゃる方が多く、治療満足度は高い印象がある。また、十味敗毒湯には抗酸化作用や皮脂の抑制作用、桜皮によるシワやキメの改善の可能性も示唆されており、美容医療においても期待できる薬剤であると考えている(図7)。

まとめ

桜皮含有の十味敗毒湯は美容医療にも期待できると考えている。また、桜皮の薬理作用は尋常性痤瘡の治療だけでなく、美肌へのサポートにもつながる。なお、美容目的の十味敗毒湯の処方には保険の適用外である。

十味敗毒湯エキス製剤には細粒剤と錠剤がある。漢方細粒剤の味が苦手な患者に演者は錠剤を積極的に処方している。

また、細粒剤(6.0g/日)には分3製剤と分2製剤がある。就労している患者には分2製剤を処方しているが好評である。

図6 症例3

美容施術後



ダウンタイム中は、肌は乾燥し、敏感になりやすく、紫外線や摩擦など外部からの刺激に対して脆弱になる → 十味敗毒湯

フラクショナルレーザー治療



十味敗毒湯併用

木村 有太子 先生 提供

図7 十味敗毒湯を内服中の患者さん

内服していると
お肌の調子が
いいです

内服していると
化粧ノリが
いいです



- 桜皮によるエストロゲン分泌促進作用 (エストロゲンにはコラーゲンやヒアルロン酸の産生を促進し、ハリや水分を保持)
- 食事バランスの乱れや紫外線による皮膚バリア機能低下の修復
- 抗酸化作用、皮脂の抑制作用
- 桜皮によるシワ・キメの改善の可能性 (化粧品) など

美容医療においても期待できる

木村 有太子 先生 提供

参考文献

- 1) 遠野弘美 ほか: 桜皮及び桜皮成分のエストロゲン受容体β結合能の評価. 薬学雑誌 130: 989-997, 2010
- 2) 竹村 司 ほか: 尋常性痤瘡患者に対する十味敗毒湯(桜皮配合)の臨床効果と作用機序. 西日本皮膚科 76: 140-146, 2014
- 3) 篠原健志 ほか: 十味敗毒湯および桜皮の皮脂合成に対する作用. 医学と薬学 73: 579-583, 2016
- 4) 遠野弘美 ほか: 尋常性痤瘡治療における十味敗毒湯の桜皮配合の意義. 別冊BIO Clinica 3: 124-131, 2014
- 5) 目片英明 ほか: 桜エキスの老化皮膚に対する有用性. FRAGRANCE JOURNAL 34: 42-47, 2006
- 6) 高岡素子 ほか: 食生活が肌の状態に及ぼす影響. 日本食生活学会誌 19: 44-49, 2008
- 7) Aoki M, et al.: Obesity-associated insulin resistance adversely affects skin function. PLoS One 14: e0223528, 2019
- 8) Murata K, et al.: administration of Jumihaidokuto inhibits UVB-induced skin damage and prostaglandin E2 production in HR-1 hairless mice. J Nat Med 75: 142-155, 2021
- 9) 菅原美紗 ほか: 脂質バランスの乱れによる皮膚バリア機能低下に対する十味敗毒湯の薬効評価. phil漢方 101: 32-34, 2024
- 10) 松尾兼幸: 十味敗毒湯の患者満足度を含めた尋常性痤瘡に対する臨床効果について. phil漢方 52: 26-28, 2015